

意見・質問	回答
<p>■基幹集会所のあり方検討について</p>	
<p>基幹集会所の譲渡について、進捗を教えてください。地域性もあるので、一律に進めていくことは難しいと思うが、公平性を保ちながら進めていただきたい。</p>	<p>地元との協議が整ったところから譲渡の手続きを進めています。譲渡ありきではなく、地域の拠点となる集会所をどう残していくか考えていく中での一つの方法と考えていますが、地元で直接管理していただいた方が効率が良いと考えています。</p> <p>現在の進捗は、豊平地域を始点として協議を進めており、その他の地域についても個別にヒアリング等を進めている状況です。</p> <p>令和6年度末が指定管理期間の区切りとなっていますが、時間のかかる話と思っていますので、令和7年度以降も継続して協議をしながら、進めていきたいと考えています。</p>
<p>集会所の見直しの話聞いたとき、「地元への移譲・移管」のインパクトが強く困惑している部分がある。地元では、自治会単位では会費を取っていたりするが、集会所管理の会費を取っておらず財源がない。管理運営の財源について考えを聞かせて欲しい。</p>	<p>個別のヒアリング等でも話をさせていただいていますが、カーボンニュートラルの取組の中で、太陽光発電等の再生可能エネルギーの売電益を基幹集会所の維持管理費に充当することも含めて検討しております。</p>
<p>■「全日本お米グランプリ in 北広島町」について</p>	
<p>お米グランプリについて、第2回大会の出展数が第1回大会より少なくなっているが、理由についてどう考えていますか。</p>	<p>昨年の出展者にお伺いすると、第1回は試しで出展してみたが、その成績を見て第2回は遠慮される方がいらっしゃいました。お米グランプリへの参加を通じておいしいお米づくりに活かしていただき、優秀な成績を収めていただきながら、「お米と言ったら北広島町」と言われる取組に繋がっていきたいと思います。</p>

令和5年度まちづくり懇談会 意見交換要旨

意見・質問	回答
<p>お米グランプリについて、良い取組と思うので、おいしいお米づくりの参考になる情報を開示していただきたい。</p>	<p>出品された方については、JAの協力をいただいて分析データをフィードバックしています。優秀なお米は冊子で紹介しているので、参考にしていただいておいしいお米作りに繋がればと考えています。</p>
<p>昨年（令和4年度）はお米グランプリ当日に北広島町に全国から米生産者が来られたが、北広島町に宿泊して、生産者同士で交流をした人がいなかったと聞いている。今年は北広島町に泊まったり、飲食していただくような仕掛けを考えているのか教えていただきたい。</p>	<p>昨年の第1回大会では全国から生産者の方が来られましたが、大会参加後そのまま帰られたケースが多いと把握しています。実行委員会で検討し、第2回大会については大会終了後、交流会を行う予定としています。全国から来られた方と町内の方含めて、良質な米づくりのための意見交換会を行ったり、神楽上演なども検討しています。町内のお米やおいしい食べ物などを味わっていただける交流会にしていきたいと思っており、今後実行委員会で詳細を決めていきます。</p>
<p>■鳥獣被害について</p>	
<p>近所にたくさんのサルが出ました。別の地域では罠や檻でかなりの頭数を捕獲したという話を聞いたり、町内各地で被害が出たという話を聞いたりします。サルの被害や対策について、情報があれば教えていただきたい。</p>	<p>サル被害はご指摘のとおり増えている状況です。鳥獣対策専門員が地域の方と話をしながら、センサーカメラを設置して出没状況を把握し、有効な対策を研究しています。</p> <p>センサーカメラと罠を設置して捕獲した実績や、地域で長年にわたって檻設置や餌付けといった努力で捕獲した実績も聞いています。追い払いも鳥獣対策専門員が指導しながら行っているところですが、頭数が減るわけではないので、追い払いを行うと別の地区でサルが出るといったような話も聞いている状況です。なかなか捕獲が難しくイタチごっこの状況ではありますが、追い払いが一番有効な対策と聞いています。地域で要望があれば、</p>

意見・質問	回答
	<p>鳥獣対策専門員と一緒に協力しながら地域ぐるみで追い払いの対策をしたいと思っています。</p>
<p>鳥獣被害について、我々でも柵をしたり対策しているが、イタチごっこで、どれだけ労力をかけても被害がなくなる。元を絶つ必要があるのではと思う。法律上の問題や動物愛護の問題もあろうかと思うが、そういった考えはないだろうか。</p>	<p>鳥獣被害対策は大きな課題と考えています。まずは環境改善の取組が重要と考えています。森づくり事業で里山整備をし、バッファ（緩衝地帯）を設けることで有害鳥獣が田畑に近づかない効果があるので、取組を進めています。侵入防止についても補助を行っており、鳥獣対策専門員が助言を行いながら地域と一緒に取り組んでいます。</p> <p>最終的な手段としては捕獲も重要であり、個体管理の取組も進めていきたいと思っています。そのためには地域の中で罠の捕獲者の育成も必要と考えているので、後継者育成の取組も行っています。</p> <p>併せて県と連携しながら広域的な個体管理の取組も進めていきます。少しでも有害鳥獣の被害の軽減に向けて引き続き取り組んでいきます。</p>